

令和6年度第3回_川越市障害者施策審議会 会議録

開催年月日	令和6年11月18日（月） 14時30分～15時15分
開催場所	川越駅西口 U_PLACE 3階 会議室
出席委員	高橋会長、増田副会長、加藤委員、峯島委員、後藤委員、 大野一美委員、大畠委員、樫村委員、山田委員、野沢委員、 長谷部委員、岡村委員、峯岸委員、飛松委員、柳井委員
事務局	福祉部障害者福祉課 忍田課長（福祉部参事）、岡安副課長、小沼副主幹、細村主任、 矢島主任、小野寺主事 こども未来部療育支援課 川上課長
欠席委員	大塚委員、大西委員、大野操委員、栗林委員
傍聴人	1名
議題	障害福祉に関するアンケート調査について
会議資料	・次第 ・川越市障害者施策審議会委員名簿 ・資料1 障害福祉に関するアンケート調査について ・資料2 障害福祉に関するアンケート調査__設問項目比較表
審議結果概要	障害福祉に関するアンケート調査については、委員の意見を踏まえ、次回の審議会で調査票の素案をお示しする。 なお、今回委員から出された主な意見は次のとおり。 ・施設での生活に関する設問項目だけでなく、家庭での過ごし方に関する設問があるとよい。 ・障害者支援施設利用者及びグループホーム利用者への調査についても、「災害時の支援」を設問項目として入れてほしい。 ・こういった年齢層の方にこういった要望があるのかが、見える形で集計されるとよい。

議事内容	
発言者	議題・発言内容
事務局	【開会】
会長	【会長挨拶】
事務局	【会議の成立確認】 【新委員挨拶】 【資料確認】
会長	【会議公開の承認】※傍聴者 1 名
事務局	【議題 障害福祉に関するアンケートについて】 資料 1, 2 に基づき説明
会長	議題について事務局より説明をいただいた。質問等あるか。
委員	「障害のない市民」へのアンケート調査について伺いたい。 今回から「障害のない市民」も調査対象となることで、障害を持たない方がどう考えてるのかを知ることができるのは良い。 抽出母数が 35 万とあるが、すべての年齢から抽出するということではないと思う。 調査対象者の年齢について、考えをお聞かせいただきたい。
事務局	調査は 18 歳以上の方を対象とする予定である。
委員	回収率について伺いたい。 必要標本数の考え方が参考として資料に掲載されているが、計算式をみると、5 割の回答があればよいと考えているように見える。 5 割では少くないか。
事務局	5 割の回答が得られれば、統計的に有意な数字となるように設計している。5 割の回答が得られれば問題ない。
会長	学術的な面から少し補足させていただく。 社会調査等では基本 3 割の回答が得られれば大成功といわれる。 5 割の回答が得られれば全体意識を見ることができると考える。
委員	調査票別設問項目について、「卒業後の日中の過ごし方」の中に、進路希望がわかるような設問をいれてほしい。卒業後、就職を希望するのか、専門学校や学校に行きたいのかということが、明らかになるといいと思う。

議事内容	
発言者	議題・発言内容
	また、施設での生活についての設問項目はあるが、家庭での過ごし方については聞かなくていいのか。
事務局	卒業後の進路希望については、「専門学校や大学で勉強したい」や「一般企業で働きたい」といった希望が分かるように選択肢を設ける予定である。家庭での過ごし方については、検討させていただきたい。
委員	川越特別支援学校だが、就労について、卒業後の進路希望を知りたいと考えている。本校では、高等部卒業後は就職という進路を前提に教育課程を組んでいる。 人生 100 年時代とささやかれてる中で、18 歳で社会に出て働くのは早すぎる。就職希望の生徒への指導は一生懸命やるが、卒業してからも学ぶ期間があった方が良くと思う。 今回、「障害のない市民」もアンケート調査の対象となるので、社会全体の考えを知ることができるとよい。
事務局	ご意見を踏まえて、次回アンケート素案をお示しさせていただく。
委員	調査票の回答方法にオンラインを追加するとあるが、オンラインは視覚障害者にとっては使いにくい。 視覚障害者が回答する際のサポート等があるのか。
事務局	オンラインは、多くの方にとって回答しやすい環境を整える手段の一つとして考えている。視覚障害者の方に関しては、介助者の方に協力いただくことを想定しているが、希望に応じて電話での聞き取りも検討している。
委員	(5) 調査票別設問項目の 15 番「災害時の支援」について、今回も「障害者支援施設利用者」と「グループホーム利用者」を調査対象としている調査票Ⅲにはこの設問を入れていない。 なぜ調査票Ⅲには入れないのか伺いたい。
事務局	災害時の支援は、基本的に施設で対応する内容のため、調査票Ⅲには入れていない。

議事内容	
発言者	議題・発言内容
委員	施設で対応できるものか、現状どうなのかという不安がある。夜間支援員がいないグループホームも多く、そのような場合、夜間に起こった災害への対応は難しいと思う。以前もアンケートなどで、グループホーム利用者も地域の避難訓練などに参加したいという要望が出ていると思う。 そのような要望もあるので、今回の調査票Ⅲに、災害時の支援もぜひ項目として入れてほしい。
事務局	ご意見を踏まえて検討をさせていただく。
委員	このアンケートは、この年齢層の方がこういうことを要望しているということが分かるような集計をしていただけるのか。
事務局	年齢や障害種別に応じて、クロス集計を行い、それぞれのニーズが見える形で報告書にまとめさせていただく。
委員	調査全体の抽出数について伺いたい。 前回調査では3, 500だったが、今回調査では4, 850となっている。この数字の違いはなにか。
事務局	前回調査の抽出数については、別途実施している「市民意識調査」のサンプル数が3, 000人であるため、それに近い数字となるように、全体の母数から割合に応じてそれぞれの調査対象種別で抽出数を出し、合計して3, 500という数字になっている。 今回調査の抽出数に関しては、母数に対する割合では抽出数を出しておらず、統計上有意な数字が得られるような設計をしている。具体的な考え方については、資料1に記載している。
会長	【その他】 その他、委員からの報告事項はあるか。
委員	特になし
会長	事務局から何かあるか。

議事内容	
発言者	議題・発言内容
事務局	・次回会議の日程について 次回の会議は令和7年1月下旬から2月上旬頃開催予定。 会場含め、正式な案内は追って通知する。
会長	委員から質問等はあるか。
委員	資料2については、もう議論が終わったということによろしいか。
事務局	資料2については、今回参考として出している。 次回アンケート調査の選択肢等や調査票案をお示しする予定。
委員	資料1（3）の調査対象で入所施設入所者とグループホーム利用者が別枠なのは、暮らしの場が異なるため、要望も異なるということ考えだと思う。 障害種別による違いと、暮らしの場による違いは、どちらが大きいのか。
事務局	「大きい」の意味合いによって変わってくるかと思うが、基本的には障害種別による違いが最も大きいと考える。 障害者支援施設やグループホーム利用者は、家族以外の介助者等がいる状況のため、在宅の方とは異なる事情があると考え、枠を分けている。
委員	審議会開始時に傍聴者は順次来場していただくと説明があった。 傍聴の受付時間外でも、傍聴できるということか。
事務局	基本的には人数制限があり、この会場では4名定員を設けている。 4名を超える場合には、お断りをしているが、定員数に余裕がある場合には順次入場させていただきたい。
委員	理念の問題だが、この計画は「川越市障害者支援計画」となっているが、これは「支援」計画ではなく、「共生」計画なのではないか。 言葉の問題だが、この計画の理念としては支援ではなく、どのように共生社会を作っていくのかということだと思う。

議事内容	
発言者	議題・発言内容
事務局	本市には地域福祉計画という上位の計画があり、そこでは、地域共生社会を理念として挙げている。本計画も地域共生社会の実現を目指す計画となっている。タイトルについては、これまで「支援」計画という名称を使ってきたが、令和9年度からは新たな計画になるので、皆様の意見をいただきながら、ふさわしい形に変えさせていただければと考えている。
会長	議事が全て終了したので、事務局に進行を戻す。
事務局	【閉会】 以上で、令和6年度第3回障害者施策審議会を終了する。
	以上